

本気で縄文人！！

日本列島にはその昔、縄文という1万年以上続いた時代がありました。縄文時代の遺物からは大きな争いの跡は見つかっておらず、美しい土器や手の込んだ装飾品など、死者を敬い、適切な規模で持続可能な共同生活を営んでいた形跡が発見されています。もっとも古い土器は縄文時代に作られていることから、高度なモノづくりの技術と多様な文化を持っていたこともわかってきました。縄文の人びとは、自然を敬い、大地の恵みを受け、祭りを行ない、自然と共生・調和しながら生きていました。3.11後、私たちはいのちの大切さや自然との共生、人と人とのつながり、そして豊かさのとりえ直しを迫られています。そのヒントを「縄文」の知恵に学びましょう。縄文と現代、過去と未来を繋ぐ鍵を見つけるクラスです。

■2013年6月～11月 ■平日の回は19:00～21:00

■全8回/定員30名 ■受講料：28,000円

※出かける回は交通費・食費・材料費などが別途かかります。

6/6（木）

オリエンテーション

君は縄文を見たか

和田晋治（富士見市立水子貝塚資料館学芸員）

約1万5千年前から1万年間も続いた縄文時代。縄文人はどのような暮らしをしていたのであろうか。狩猟採集に依存した原始的なイメージを抱いている人も多いが、実は高い文化を有していたのである。

●著書：『縄文海進の考古学—早期末葉・埼玉県打越遺跡とその時代（考古学リーダー18）』/（共著）六・一書房 2010/『縄文中期勝坂式土器の猪装飾』あらかわ第13号 2011

7/27（土）午後

埼玉県富士見市を訪ねる

水子貝塚訪問

— 縄文人の息吹を感じよう

富士見市立水子貝塚公園資料館

国指定史跡水子貝塚公園は、約6000年前の縄文時代前期のムラを再現し、周囲を森で囲まれた園内には復元住居5棟や資料館などがあります。貴重な考古資料の数々を通して、縄文人の生きた世界を追体験してみましょう。



富士見市立水子貝塚公園風景

9/7（土）午後

ある縄文研究者の死と生

— ドキュメンタリー『KOJO』上映とトーク

岡村 淳（記録映像作家〈在ブラジル〉）

自らの知恵と手足を駆使し、学閥に与せず独自の縄文論を展開した古城泰。40代で怪死した彼の背景を、ブラジルから日本・カンボジア・フィリピンの現場へと探るドキュメンタリーの鑑賞とトーク。

●主著：『ブラジルの土に生きて移民を撮る・移民になる』港の人 2013年4月刊行予定 ●参考文献：古城泰『型式学的方法の再検討』考古学研究44巻4号（通巻176号）1998

◎上映作品『KOJO』

監督：岡村淳 / 前編：114分 後編：91分 / 2006年



上映作品『KOJO』に登場するカンボジア・アンコールワット遺跡

9/21（土）10:00～16:00

神奈川県横浜市鶴見区を訪れる

ようこそ縄文の森・三ツ池へ

— 下末吉台地模式地で学ぶ、座学と土器づくり

金子好伸（縄文学伝道師/縄文人になる会顧問/国際縄文学協会会員）

関東ローム四重層の一つ、粘土質の「下末吉台地」（横浜・山手～溝の口・子母口）模式地は、鶴見区下末吉の三ツ池公園正門前に位置します。周囲は縄文遺跡群。当時は浮島状態で、海・山の幸に恵まれていました。隣接の「小仙塚貝塚」に触れ、学び、縄文土器づくりで追体験します。

●主論文：「下末吉台地と『上台縄文遺跡・貝塚群』」『縄文』18号 国際縄文学協会 2008/「縄文人の源流と琉球・アイヌ考」『縄文』21号 国際縄文学協会 2009 ●参考文献：「縄文人に学ぶ持続可能な社会」『縄文』24号 国際縄文学協会 2012

9/25（水）

時空をこえる文様芸術

— 縄文・ケルト・ユーロ＝アジア

鶴岡真弓（多摩美術大学芸術人類学研究所 所長）

ユーロ＝アジア世界の「東の極み・日本」と「西の極み・ケルト」を横断して、縄文の文様と、そこに見られる死生観を読み解きます。

●主著：『ケルト 装飾的思考』ちくま学芸文庫 1993/『すぐわかるヨーロッパの装飾文様 美と象徴の世界を旅する』東京美術 2013 ●参考文献：鶴岡真弓『図説ケルトの歴史 文化・美術・神話をよむ』（共著）河出書房新社 1999/鶴岡真弓『装飾する魂 日本の文様芸術』平凡社 1997



.....

ビデオを学ぶならOurPlanetTV

映像を楽しみたい人から、ビデオジャーナリストを目指す人まで、基礎編、実践編、短期集中コースなど様々なプログラムで実施しています。

●基礎編（5月～7月/9月～12月）
企画、撮影、構成、ノンリニア編集まで、映像制作の全ての過程を学びながらショートドキュメンタリーを制作

●3日間集中コース（4月/8月）
映像制作の基本を3日間で学ぶ、短期集中コース

●実践編（1年間）
映像制作経験者を対象に、1年をかけてひとつの作品を完成させることを目標とした実践コース

※ 詳細はウェブサイトにてチェックしてください
『アウブラ』で検索！

www.ourplanet-tv.org TEL：03-3296-2720
OurPlanet-TV EMAIL：info@ourplanet-tv.org

10/5（土）16:00～18:00

縄文神話と胎生学…

性・死・REBORNの三幅対

田中 基（多摩美術大学芸術人類学研究所 特別研究員）

今から5000年前の縄文中期の八ヶ岳山麓に華開いた多様な土器造形群に登場する水棲動物・蛙・蛇体・猪と女神身体像の構図に、縄文神話の可能性を探る。

●主著：『縄文のメドゥーサ 土器図像と神話文脈』現代書館 2006 ●参考文献：『古事記』角川ソフィア文庫 2002/三木成夫『胎児の世界 人類の生命記憶』中公新書 1983



10/25（金）

「縄文土器」の再発見

— 岡本太郎と縄文的世界

北澤憲昭（女子美術大学 教授）

日本的なものを代表＝象徴する弥生文化に対して、岡本太郎は「縄文文化」を別の伝統として掲げることによって「伝統」概念に揺さぶりをかけた。

●主著：『眼の神殿 「美術」受容史ノート』ブリュッケ 2010/『岸田劉生と大正アヴァンギャルド』岩波書店 1993 ●参考文献：岡本太郎『日本の伝統』知恵の森文庫 2005/北澤憲昭『反復する岡本太郎 あるいは「絵画のテロル」』水声社 2012



11/7（木）

縄文の正体に迫る

小林達雄

縄文人はムラの外に広がるハラから多種多様な食料資源や資材を利用する「縄文施政方針」を旨として、自然との共存共生、共感共鳴を全うしながら個性豊かな文化を構築したのである。

●主著：『縄文人の世界』朝日選書 1996/『縄文人の文化力』新書館 1999 ●参考文献：小林達雄『縄文の思考』ちくま新書 2008/小林達雄・佐原真『世界史のなかの縄文 対論』新書館 2001

